令和8年11月13日(金)
令和8年度 新興感染症受入訓練

麻疹における平常時の対応

高千穂町国民健康保険病院
感染管理認定看護師
興梠　裕樹

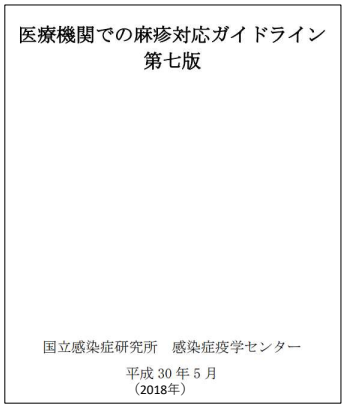
1

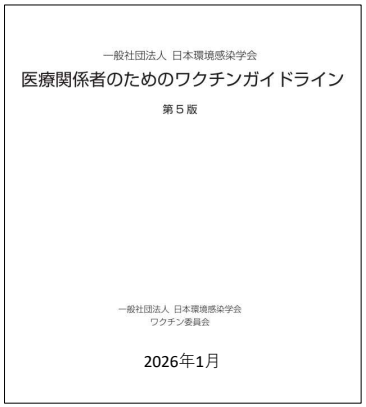
本日の流れ

1. 麻疹について
2. 平常時の対応
3. 発生時の対応

2

今回使用するツール





3

麻疹に関するガイドライン一覧

国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト
https://id-info.jihs.go.jp/manuals/guidelines/measles/index.html



4

1.麻疹について

5

麻疹

- 原因ウイルス：Paramyxovirus科Morbillivirus属麻疹ウイルスで、直径100～250nmのエンベロープを有する一連鎖RNAウイルス
- 感染源：ヒトからヒトへの空気感染（飛沫核感染）の他に、さらに飛沫感染、接触感染など様々な感染経路で感染する
- 潜伏期間：10～12日
- 感染期間：発症1日前～解熱後3日（または発疹消失後5日）
- 感染力：極めて強い

6

空気感染とは

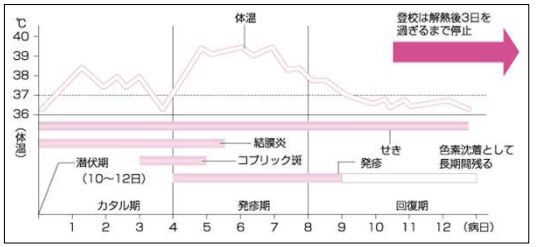


https://direct.sanwa.co.jp/contents/sp/howtouse/how-partition-infection.html より一部改変

7

臨床症状

- 麻疹患者と接触10～12日後に、発熱、咳、鼻汁、結膜炎などのカタル症状が出現する（カタル期）
- 2～3日後に一度解熱するが、翌日には再度39～40℃に上昇し（2峰性発熱）、2峰目の発熱出現と同時に顔面から斑丘疹が出現し、下方へ拡大する（発疹期）
- 典型的な麻疹の皮疹は色素沈着を残して消退する（回復期）
- 麻疹に特徴的な頬部に出現する白色の頬粘膜（コプリック斑）は、発疹出現前の解熱時に出現し、3日間程度持続する。



「令和3年度院内感染対策講習会 4.麻疹・風疹・水痘・ムンプスの感染対策とワクチンプログラム」より引用

8

感染力

【各疾患の感染期間と基本再生産数（R0）】

疾患名	潜伏期間（日）	基本再生産数（R0）
麻疹	7～16	16～21
風疹	7～28	7～9
水痘	10～21	8～10
流行性耳下腺炎	8～32	11～14
インフルエンザ	1～2	1～3

- 基本再生産数：感受性がある人口集団において、初期感染者1名が感染期間に生産する二次感染者数
  - ＊R0＜1：流行は自然に収束
  - ＊R0＞1：流行は拡大

「臨床とウイルス 2016；44：40-6」より引用

9

修飾麻疹

- 麻疹ウイルスに対する免疫が不十分な場合、微熱、発熱期間が短い、カタル症状を認めない、限局性の発疹などの症状を呈する。
- 修飾麻疹の症状は軽症で、感染力も弱い。
- 修飾麻疹の場合、潜伏期間は延びる可能性がある。
  （就業制限は修飾麻疹を考慮した設定）

「国立感染症研究所.麻疹とは（https://onl.tw/CZiACKE）」より引用

10

2.平常時の対応

11

1.職員・実習生への対応

1）予防接種歴・罹患歴・抗体価を確認する
2）麻疹含有ワクチンを接種できる体制を整える
⇒対象者：1歳以上で2回の予防接種歴が記録によって確認できない者、検査診断された罹患歴がない者、予防接種歴・罹患歴が不明で抗体陰性あるいは低抗体価の者
3）抗体価測定（EIA法、またはPA法）を実施できる体制を整える

2.マニュアルの作成

1）麻疹患者の受診を想定した診療体制を明確にしておく
①外来トリアージ：問診項目に症状、発症前1～3週間の発熱・発疹患者との接触の有無、海外渡航歴など追加
②麻疹（疑い）患者受診時の動線を確保する
③麻疹患者との接触者に説明・確認する内容を明確にする
④接触者への電話連絡が不可能であった場合の対応方法（郵送・FAXなど）を検討
⑤接触者リストアップのためのテンプレートを準備
2）麻疹患者発生時における対応方法をあらかじめ決定し、院内で迅速な情報共有・伝達手順を定めておく

「医療機関での麻疹対応ガイドライン第七版」より引用

12

1.職員・実習生への対応

1）予防接種歴・罹患歴・抗体価を確認する
2）麻疹含有ワクチンを接種できる体制を整える
⇒対象者：1歳以上で2回の予防接種歴が記録によって確認できない者、検査診断された罹患歴がない者、予防接種歴・罹患歴が不明で抗体陰性あるいは低抗体価の者
3）抗体価測定（EIA法、またはPA法）を実施できる体制を整える

2.マニュアルの作成

1）麻疹患者の受診を想定した診療体制を明確にしておく
①外来トリアージ：問診項目に症状、発症前1～3週間の発熱・発疹患者との接触の有無、海外渡航歴など追加
②麻疹（疑い）患者受診時の動線を確保する
③麻疹患者との接触者に説明・確認する内容を明確にする
④接触者への電話連絡が不可能であった場合の対応方法（郵送・FAXなど）を検討
⑤接触者リストアップのためのテンプレートを準備
2）麻疹患者発生時における対応方法をあらかじめ決定し、院内で迅速な情報共有・伝達手順を定めておく

「医療機関での麻疹対応ガイドライン第七版」より引用

13

1）予防接種歴・罹患歴・抗体価を確認する

雇用・実習開始前に、全ての職員および実習生の予防接種歴、罹患歴、抗体価を確認する。

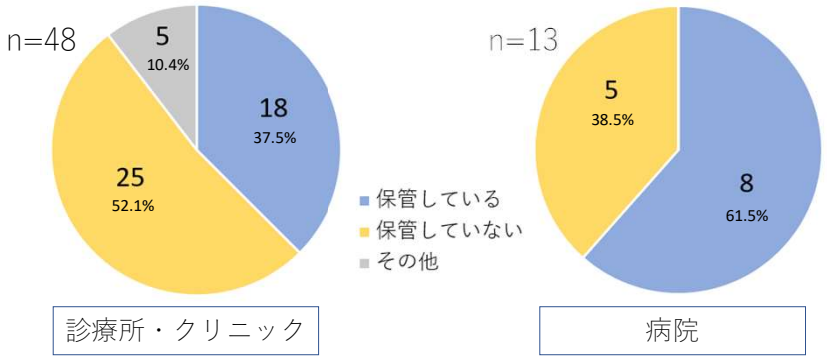
- 予防接種歴
  ⇒ 1歳以上で2回の麻疹含有ワクチン接種の記録
- 罹患歴
  ⇒ 検査診断された麻疹の罹患歴記録
- 抗体価
  ⇒ 十分に基準を満たす結果であることを確認
  EIA法（IgG）16.0以上、中和法 1：8以上、FIA法（F）抗体価1.5AI以上

「医療機関での麻疹対応ガイドライン第七版」「医療関係者のためのワクチンガイドライン 第5版」より引用

14

アンケート結果

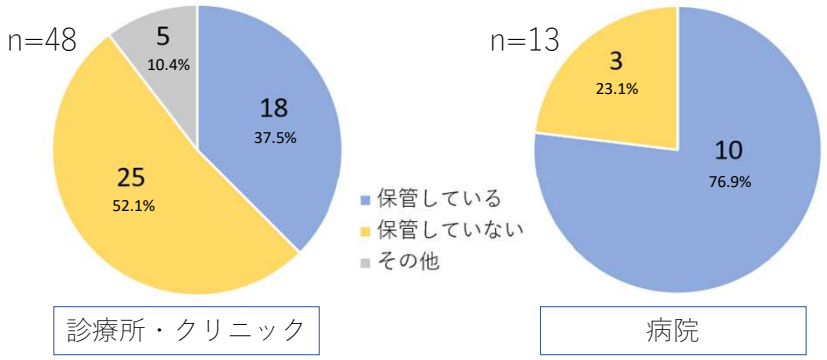
●ワクチン記録の保管状況



15

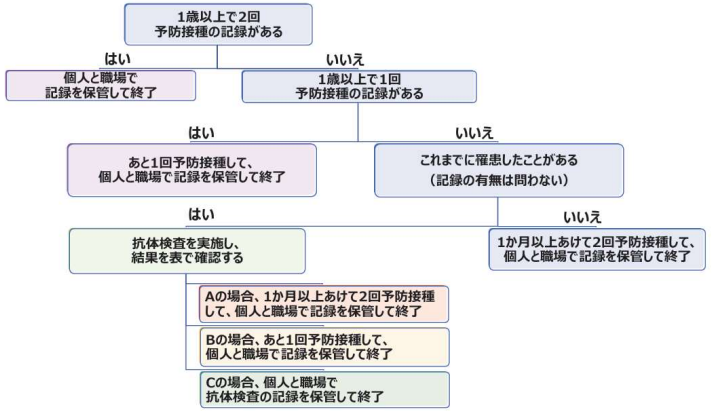
アンケート結果

●抗体記録の保管状況



16

ワクチン対応フローチャート（ワクチンガイドライン第5版）



「医療関係者のためのワクチンガイドライン第5版（P.S8）」より引用

17

抗体価と必要予防接種回数（予防接種記録がない場合）

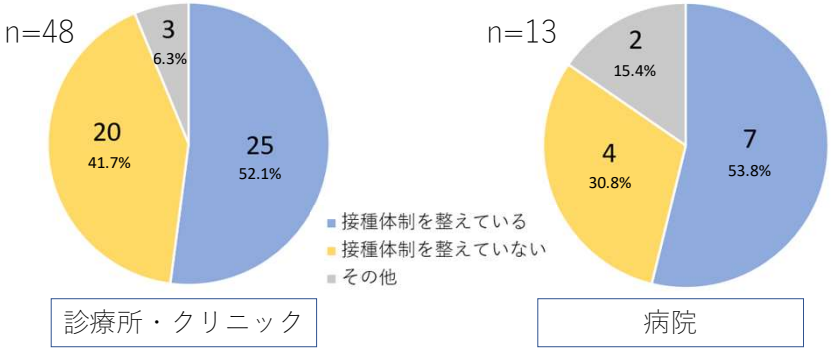
	A：あと２回の予防接種が必要	B：あと１回の予防接種が必要	C：今すぐの予防接種は不要
麻疹*	EIA 法（IgG）2.0 未満 中和法 1：4 未満 FIA 法（F）抗体価 0.4AI 未満	EIA 法（IgG）2.0 以上 16.0 未満 中和法 1：4 FIA 法（F）抗体価 0.4AI 以上 1.5AI 未満	EIA 法（IgG）16.0 以上 中和法 1：8 以上 FIA 法（F）抗体価 1.5AI 以上
風疹**	HI 法 1：8 未満 EIA 法（IgG）（A）2.0 未満 EIA 法（IgG）（B）ΔA0.100 未満　※：陰性 LTI 法（C）10IU/mL 未満 CLEIA 法（D）10IU/mL 未満 CLEIA 法（E）抗体価 4 未満 FIA 法（F）抗体価 1.0AI 未満 FIA 法（G）10IU/mL 未満 CLIA 法（H）10IU/mL 未満 ELFA 法（I）10IU/mL 未満	HI 法 1：8、1：16 EIA 法（IgG）（A）2.0 以上 8.0 未満 EIA 法（IgG）（B）30IU/mL 未満 LTI 法（C）10 以上 30IU/mL 未満 CLEIA 法（D）10 以上 45IU/mL 未満 CLEIA 法（E）抗体価 4 以上 14 未満 FIA 法（F）抗体価 1.0 以上 3.0AI 未満 FIA 法（G）10 以上 30IU/mL 未満 CLIA 法（H）10 以上 25IU/mL 未満 ELFA 法（I）10 以上 45IU/mL 未満	HI 法 1：32 以上 EIA 法（IgG）（A）8.0 以上 EIA 法（IgG）（B）30IU/mL 以上 LTI 法（C）30IU/mL 以上 CLEIA 法（D）45IU/mL 以上 CLEIA 法（E）抗体価 14 以上 FIA 法（F）抗体価 3.0AI 以上 FIA 法（G）30IU/mL 以上 CLIA 法（H）25IU/mL 以上 ELFA 法（I）45IU/mL 以上
水痘	EIA 法（IgG）2.0 未満 IAHA 法 1：2 未満 中和法 1：2 未満 FIA 法（F）抗体価 0.3AI 未満	EIA 法（IgG）2.0 以上 4.0 未満 IAHA 法 1：2 中和法 1：2 FIA 法（F）抗体価 0.3AI 以上 0.5AI 未満	EIA 法（IgG）4.0 以上 IAHA 法 1：4 以上 中和法 1：4 以上 FIA 法（F）抗体価 0.5AI 以上
おたふくかぜ	EIA 法（IgG）2.0 未満 FIA 法（F）抗体価 0.7AI 未満	EIA 法（IgG）2.0 以上 4.0 未満 FIA 法（F）抗体価 0.7AI 以上 1.3AI 未満	EIA 法（IgG）4.0 以上 FIA 法（F）抗体価 1.3AI 以上

「医療関係者のためのワクチンガイドライン第5版（P.S9）」より引用

18

アンケート結果

●ワクチン接種体制を整えているか



19

アンケート結果

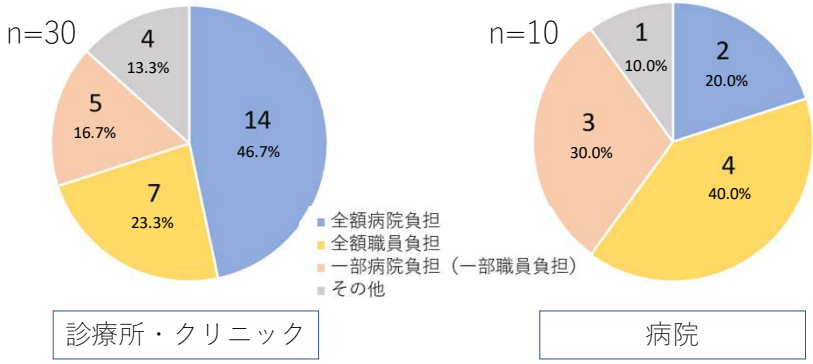
●定期的な抗体検査（職員の抗体検査を実施している医療機関に限る）



20

アンケート結果

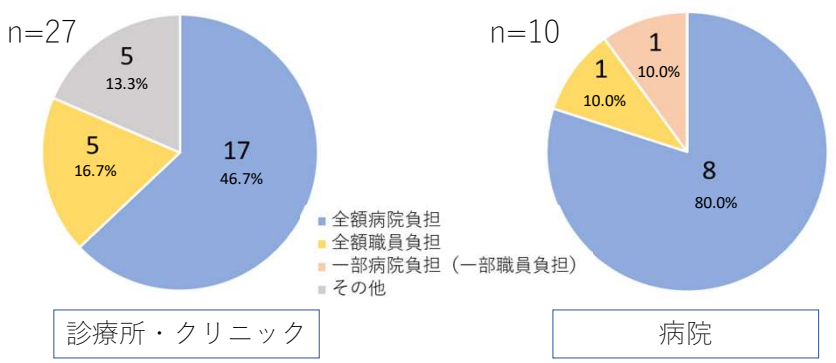
●ワクチン費用負担（職員のワクチン接種を実施している医療機関に限る）



21

アンケート結果

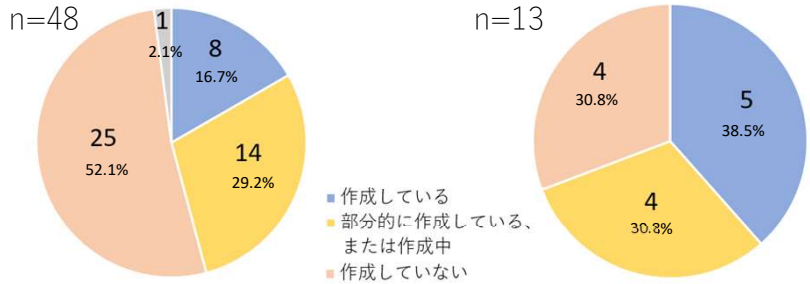
●抗体検査費用負担（職員の抗体検査を実施している医療機関に限る）



22

アンケート結果

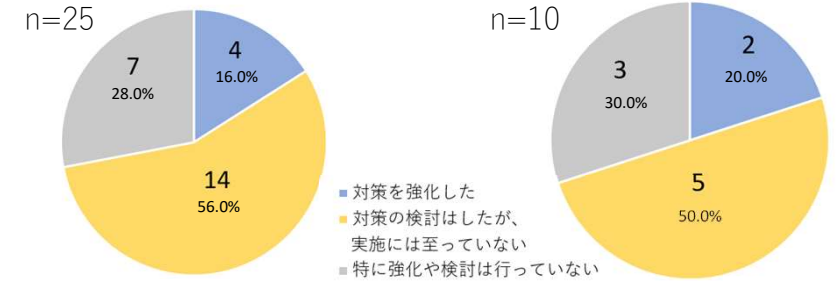
●マニュアルを作成しているか



23

アンケート結果

●3年前の訓練以降、施設内で麻疹対策の強化・検討をおこなったか



24

平常時の対応：まとめ

1. 職員・実習生の免疫状況を把握する。
   予防接種歴・罹患歴・抗体価を記録で確認し、必要なワクチン接種につなげる。
2. 麻疹を疑ったときに迷わない体制を整える。
   問診・トリアージ、患者動線、院内の情報共有、接触者対応をマニュアルに明確化する。
3. 備えを「作って終わり」にせず、継続して見直す。
   記録の管理、接種・検査体制、費用負担を整理し、訓練を通じて実際に動ける体制にする。